【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年4月7日(2016.4.7)

【公開番号】特開2014-180289(P2014-180289A)
【公開日】平成26年9月29日(2014.9.29)
【年通号数】公開・登録公報2014-053
【出願番号】特願2013-54492(P2013-54492)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/02　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/0245　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/02　３１０Ｂ
Ａ６１Ｂ　5/02　３２０Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成28年2月18日(2016.2.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被検体からの光を受光する受光部を有する検出部と、
前記被検体に接触する筐体面側に設けられ、前記被検体からの光を透過し、かつ前記被検体の生体情報の測定時に前記被検体に接触する凸部を有する透光部材と、
前記筐体面において前記凸部を囲むように設けられる押圧抑制部と、
を含み、
前記押圧抑制部は、
前記筐体面に直交する方向からの平面視において、前記被検体の検出部位の周長方向である第１の方向に対して直交する第２の方向に在する押圧抑制面を有することを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項２】
請求項１において、
前記筐体面が、前記第１の方向に沿った中心線により第１の領域と第２の領域に区画される場合に、前記凸部は、前記第１の領域に設けられ、
前記第２の方向は、前記第１の方向に直交し、かつ前記凸部から前記中心線へと向かう方向であり、
前記押圧抑制面は、前記凸部の位置から前記第２の方向に延びる面であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項３】
請求項１又は２において、
前記第２の方向の反対方向を第３の方向とし、前記凸部の位置から、前記押圧抑制面の前記第２の方向側の第１の端部までの距離をＬＥ１とし、前記凸部の位置から、前記押圧抑制面の前記第３の方向側の第２の端部までの距離をＬＥ２とした場合に、ＬＥ１＞ＬＥ２であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項４】
請求項３において、
前記凸部の位置における前記第１の方向での前記押圧抑制面の幅をＷＳとした場合に、

ＷＳ＜ＬＥ１であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項５】
請求項１乃至４のいずれかにおいて、
前記押圧抑制面は、前記凸部の位置から、前記筐体面の前記第１の方向に沿った中心線を越えて、前記第２の方向に延びる面であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項６】
請求項１乃至５のいずれかにおいて、
前記凸部の位置における前記第２の方向での前記押圧抑制面の長さをＬＳとし、前記凸部の位置における前記第２の方向での前記筐体面の長さをＬＣとした場合に、ＬＳ＜ＬＣであることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項７】
請求項１乃至６のいずれかにおいて、
前記生体情報検出装置が前記被検体の手首に装着される場合に、前記凸部は、前記被検体の手と下腕のうち手側に設けられ、前記第２の方向は、前記被検体の前記手から前記下腕へと向かう方向であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項８】
請求項１乃至７のいずれかにおいて、
前記凸部の位置から前記第２の方向において第１の距離だけ離れた位置を第１の位置とし、前記凸部の位置から前記第２の方向において前記第１の距離よりも長い第２の距離だけ離れた位置を第２の位置とし、前記第１の位置における、前記筐体面に直交する方向での前記押圧抑制面の高さをＨＳ１とし、前記第２の位置における、前記筐体面に直交する方向での前記押圧抑制面の高さをＨＳ２とした場合に、ＨＳ１＞ＨＳ２であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項９】
請求項１乃至７のいずれかにおいて、
前記押圧抑制面は、前記筐体面に直交する方向での高さが、前記凸部の位置から前記第２の方向へと向かうにつれて低くなるように傾斜していることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１０】
被検体からの光を受光する受光部を有する検出部と、
前記被検体に接触する筐体面側に設けられ、前記被検体からの光を透過し、かつ前記被検体の生体情報の測定時に前記被検体に接触する凸部を有する透光部材と、
前記筐体面において前記凸部を囲むように設けられる押圧抑制部と、
を含み、
前記押圧抑制面の短手方向を第１の方向とし、前記押圧抑制面の長手方向を第２の方向とし、前記凸部の位置から前記第２の方向において第１の距離だけ離れた位置を第１の位置とし、前記凸部の位置から前記第２の方向において前記第１の距離よりも長い第２の距離だけ離れた位置を第２の位置とし、前記第１の位置における、前記筐体面に直交する方向での前記押圧抑制面の高さをＨＳ１とし、前記第２の位置における、前記筐体面に直交する方向での前記押圧抑制面の高さをＨＳ２とした場合に、ＨＳ１＞ＨＳ２であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１１】
請求項１乃至１０のいずれかにおいて、
前記凸部の位置から前記第２の方向において第１の距離だけ離れた位置を第１の位置とし、前記凸部の位置から前記第２の方向において前記第１の距離よりも長い第２の距離だけ離れた位置を第２の位置とし、前記第１の位置における、前記第１の方向での前記押圧抑制面の幅をＷＳ１とし、前記第２の位置における、前記第１の方向での前記押圧抑制面の幅をＷＳ２とした場合に、ＷＳ１＞ＷＳ２であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１２】
請求項１乃至１０のいずれかにおいて、

前記押圧抑制面は、前記筐体面の前記第１の方向に沿った中心線を越えて、前記第２の方向に向かうにつれて、前記第１の方向での幅が小さくなることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１３】
請求項１乃至１２のいずれかにおいて、
前記凸部の位置における前記第２の方向での前記押圧抑制面の長さをＬＳとした場合に、１５ｍｍ＜ＬＳ＜２５ｍｍであることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１４】
請求項１乃至１３のいずれかにおいて、
前記透光部材は、
前記被検体側に少なくとも一部が突出する前記凸部と、
前記凸部に対して、前記被検体側とは反対方向側である下方側に設けられるボディー部とを有することを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１５】
請求項１４において、
前記ボディー部は、前記凸部の位置から、前記筐体面のカバー部材の下方に延在形成され、前記押圧抑制面は前記カバー部材の面であることを特徴とする生体情報検出装置。
【請求項１６】
請求項１乃至１５のいずれかにおいて、
前記生体情報として脈波を検出することを特徴とする生体情報検出装置。